

とちぎボランティアネットワーク【ボランティア情報】隔月刊

# ボランティア情報

栃木の市民活動を推進する

2014/5/15 vol. 206

- 2……ボラ時評 (塚本竜也)
- 3……会員通信①県北・Vネットの集い「みんな de ごはん」
- 3-5…NEWS「寄付ハイク」中村絹江
- 5-6…ボランティア情報
- 7……今月のFB・今月のSOS
- 8……市民文庫 (白崎一裕)
- 9……ブロガー Essey ● tochigivnet.com
- 10-11…会員通信 ●寄付ハイク報告 ●会員・寄付
- 12……フェアトレードのある店 23：もうひとつの美術館



■お題■

## 蛸烏賊

イラスト/菊池洋勝●イラスト/菊池洋勝●ダイオウイカ、リュウグウノツカイ、メガマウスなど日本各地の海で深海魚が打ち上げられてます。東日本大震災の影響や異常気象による海中の変化など原因は諸説様々に論じられてますが真相は分かりません。事実は小説よりも奇なり。捏造や改竄と無縁の世界は神秘に満ちてます。“もう一度寝たら終いと春惜しむ。宇鷹” webhero@hotmail.com

## ●「社会に役立ちたい」が増加

最近よく言われることだが、若者の働く意識が変わってきた。身近にいる人の話を聞いてもそう感じることが多いが、統計からもそのことがわかる。平成25年度の厚生労働白書掲載の「新入社員の働く目的の推移」のグラフとみると、2000年から

大きな転換が始まっていることがわかる。主な変化は、①「楽しい生活をしたい」と望む人が急増、②「経済的に豊かな生活がしたい」が下落、③「社会のために役立ちたい」が右肩上がりとなっている。特に、③「社会のために役立ちたい」は、2000年から2012年の間に少しずつ増加を続け、3倍に増加した。

## ●「25〜29歳のボランティア」は、寂しい15%

しかしこれは必ずしもボランティア活動に参加する若者の増加にはつながらない。総務省の社会生活基本調査における年齢別ボランティア活動参加率調査によると、01年、06年、11年の直近の過去3回の統計では、25歳〜29歳が約15%と最も低い。この統計は自治会などの地縁活動も含まれるので必ずしもNPOが実施するボランティア活動への参加率ではないが、若者の意識の変化が起こっているなかで、15%はなんともさみしいと思える。だが、学生時代はボランティア活動をやったけど、その後ばったりという人は確かに身近

にも多い。

## ●CSRの流れと、非正規雇用で余裕なしの流れ。

このような調査結果の乖離が起る理由としては、いくつかのことが考えられる。例えば、「社会に役立つ」は、NPOやボランティアの専売特許ではなく、企業も本業を通じて社会に役立つということを見直し、アピールするようになり（CSRやCSVの流れ）、そのような若者の受け皿になっている。非正規雇用で働く若年者が増加（約3割）など経済的に厳しく、やりたいけど余力がない人が増えている、などは大きな理由ではないだろうか。

## ●後継者どうする？ 傍観できないNPO。

NPOとしてはこの状況を傍観してはいけけない。NPOにとつても若者の参加をどのように継続的に得ていくか、ということは今後ますます重要である。それは単に団体を活性化させるためというだけでなく、特に長く続いてきた団体では顕在化し始めている

「後継者問題」を考える時、きわめて重要になる。

## ●「行動の機会をさりげなく提供する」のが腕の見せどころ。

では、25歳〜29歳でばったりの壁を超えるためにどうすべきか。戦略的発想から考えてみる。  
・大学など学校を卒業し働き始めた後でも無理なく続けられる活動を用意する（ライフステージに合わせた活動の選択肢をつくる）。  
・その人がついていた仕事にとつてもプラスになるような時間を提供する（経験アップや気分転換の時間など）。  
・多少語弊のある表現だが、数は求めず3人でも、5人でも、この人とは思う人を手塩にかける。

その他いろいろな方法があると思うが、要は25〜29歳をみすみす手放してはダメということである。「社会に役立ちたい」という気持ちがある人たちに行動の機会をさりげなく提供するのNPOの腕の見せ所であり、この年齢層の若者たちと断絶せず活動を行えることが今後の団体の発展に不可欠であるのだから。

## ボランティア 市民活動 時事評論

# 25〜29歳でばったり、の壁。 若者世代の「ボランティア」と、 「活動」をいかに維持するか。 一バトンタッチを見据えて。



## 塚本竜也

本会理事（トチギ環境未来基地代表理事 / 宇都宮）



## 県北Vネットの集い

フードバンク・チャリティ  
30人で「みんなdeごはん」大盛況。  
◎大田原市「国際医療福祉大リハセン・ボランティアセンター」で実施 ◎2014/4/18(金)19:30～



昨年からはまった会員の集いですが、今年度で3年目となりました。2月に行った県南会員の集いからは、会員外にも門戸を広げるために「Vネットの集い」と名称を変更いたしました。新年度となり最初の「Vネットの集い」は県北・



大田原で行いました。

金曜日の夜ということで、どの程度の人たちが集まるのか心配しましたが30人近くの方が集まってくれました。

さくっと、自己紹介したあと、恒例の「みんなdeごはん」。一人1品(2、3人前)もってきて食事会です。チャリティも兼ねているので500円以上の寄付も募り、結果17,000円になりました。ありがとうございます。これは「フードバンク県北・大田原支部」の活動資金になります。

会のほうも和やかに進み、たのしいひと時を過ごすことができました。参加していただいた皆様に感謝です。

今回参加することができなかった人は、次回のVネットの集いをお待ちください。楽しいですよ。(報告：徳山篤)

## 歩き続けて 第6回

一部、走ってます!



N P O 春 の 合 同 寄 付 キ ャ ン ペ ー ン 2 0 1 4

# 寄付ハイク



## 5/10・栃木で。 参加165人、 寄付135万円 ありがとうございます。

●大平山頂往復ランコースの先頭争いの2人。  
仲村さん(サバイバルネット・ライフ)と吉成さん(ウエーブ)。1位は吉成さんで1時間1分! 標高差230m+7.3kmですから。すごい!!

### ●寄付ハイクの集計(速報)

- ・総額 1,350,200円
- ・寄付者259人(内参加者は165人)
- ・ウイメンズハウス497,700円
- ・フードバンク(Vネット)129,000円
- ・ウエーブ 97,000円
- ・サバイバルネット・ライフ 97,000円
- ・若者未来基金(Vネット) 90,000円
- ・だいじょうぶ 85,000円
- ・蔵の街たんぽぽの会 84,000円
- ・トチギ環境未来基地 81,500円
- ・うりずん 57,000円
- ・スペシャルオリンピックス日本・栃木 37,000円
- ・まごの手 35,000円
- ・とちぎコミュニティ基金 32,000円
- ・とちぎユースワークカレッジ 28,000円

●最高の気分がいい天気の下、ココロもカラダも元気になって寄付&ハイキングしました。寄付を多く集めている団体は「寄付だけでもください」と事前に集めていたのがポイントです。見えない地道な努力が必要ですね。(矢野)



# ハイタッチ・ボラもいた！…出会いの機会は「寄付ハイク」

## 中村絹江

(とちぎ市民活動推進センター)

新緑の美しい5月10日、第6回寄付ハイクが栃木市で開催されました。参加者は、蔵の街・散策コースが90人、太平山・田舎歩きコースが60人、太平山頂往復RUNコースが20人でした。そして、当日の170人の寄付額は80万円となりました。事前に各団体への寄付もあり、総額は135万円、寄付者数259人と過去最高額になりました。

### ●NPOに広報・寄付のチャンス

NPOが合同で寄付キャンペーンを行うようになったのは、単体ではアピール度も弱く、市民への広がりがあり期待できないからです。またNPOが日常の仕事に追われて、新規に支援者を広げたり寄付を集めることに時間を費やせない事情もあります。

そこで、市民活動支援を行っている中間支援センターが組織する「とちぎコミュニティ基金（とちコミ）」と「積極的に情報を公開し活動しているNPO」とが協力しあって、より多くの人の関心を集め、社会にアピールする合同寄付キャンペーンを行うようにしたのです。

### ●寄付ハイクの事前活動

今年もとちコミメンバーと参加NPOの代表が集まって4月に戦略会議を開きました。参加NPOからは力強い口調で目標金額が提示され、目標達成のための戦略が語られました。

当日ハイキングに参加できなくても事前に「参加したつもり寄付」や「ランナー応援寄付」を集め、いかに多くの



街歩きコース

## 山頂往復 RUN コース



●①スタートは街中



●②街中走りぬけ



●④本気で走る標高差230m



●⑤頂上からの眺め



●③いよいよ山



●⑦給水



●⑥下りは余裕



●本気組。右から1位、3位、2位、4位

人に声をかけ、自信を持って活動を紹介し、共感してもらえかが寄付を集めるポイントです。これでウィメンズハウスとちぎは37万円も集めました。(すごい!)

## ●多様な「ボランティア」というチャンネル

寄付ハイクの文字が入った「のぼり制作ボラ」や「飲み物提供ボラ」など、日頃のお付き合いや周囲の人材をもう一度見直しました。今年は「女子学生のハイタッチ応援ボラ」や「給水ボラ」も登場しました。「誘導応援ボラ」「写真撮影ボラ」「金・銀・銅メダル作成ボラ」など、ボランティアに楽しいネーミングをつけ、感謝の言葉を添えてお願いしました。

## ●新たな試み＝JustGivingでWEB寄付集め

さらに、新たな挑戦をする支援者もいます。仲村天平さんは、JustGivingという寄付サイトに事前に登録して、「私はサバイバルネット・ライフのために走ります!どうか応援して下さい!」とWEB上で呼びかけ。呼びかけ

に応じて16,000円の寄付がありました。一緒にイベントに参加できない方や遠方の方にも、寄付のチャンスを増やするという効果があります。

## ●出会いの機会『寄付ハイク』を広めよう

子どもや若者、高齢者や障がい者等の支援をしているNPOの代表やその仲間たちと出会える寄付ハイクは、代表の思いや現場の課題を直接聞くことができるとも貴重な機会です。また、参加者同士の素敵な出会いもありましたが、皆さんに紹介するには、当日だけでは時間が足りません。今後はその他大勢の人に向けてNPOが主催者となって「寄付ハイク報告会」を開催し、NPOと支援者をつなぐ媒体として活用していただきたいと思います。

私たちが目指す社会は、誰もがふだんの暮らしが幸せに思えるような社会です。支援を受けている人が、いつかは支援者になれるような循環も生み出していけると信じてNPOの活動を応援したいと思います。

山コース  
写真は  
P 11



**6/1「総会・Vネットの集い」第2部**  
**「おひとり様と死 一死んだ後から、今**  
**を考えるー」/宇都宮**  
電話 028-622-0021  
tvnet1995@ybb.ne.jp

●6月1日(日)13:30～道の駅うつのみやろまんちっく村・温泉宿泊棟「地下研修室」で。第1部・会員総会(13:30-14:50)支持会員と団体会員のみです。賛助会員はオブザーバー参加OK

●第2部 記念講演(15:00-16:00)  
**「おひとり様と死 一死んだ後から、今**  
**を考えるー」**

NPO法人三松会 理事長 塚田一晃さん  
(群馬県館林市)

三松会は、身寄りのない人、孤独死、家族・親戚からも縁の切れた人を「誰でも供養するNPO」として栃木・群馬・埼玉で活動しています。それは、死んでからだけでなく、そうなる前からの活動として「孤独死予防センター」や「フードバンク北関東」を運営し、生前からの縁づくりもおこなっています。身寄りのな

い人の入院・入所(老人ホーム等)の際の身元引き受け、宗教に関係なく諸々の事情でお墓に入れられない人のために共同墓地もあります。おひとりさま社会を生きぬくために何が必要かを考えましょう。※会員でない方も是非、お誘いあわせの上ご参加ください。

●第3部 Vネットのつどい(16:20-17:00) ●塚田さんを囲んで、お茶を飲みながら交流会を行います。会員でない方も是非、記念講演の後まで残ってご参加ください。

## 6/21 まけないぞう売りボラ募集

とちぎVネット

電話 028-622-0021(菊池)

●6/21(土)10時-19時「キャンドル雷都とちぎ」イベントで、被災地復興商品「まけないぞう」を販売します。節電や環境保全を考えるイベントです。訪れた人が少しでも節電や地球温暖化防止などの環境問題に目を向けて欲しいという願いが込められ、色とりどりのキャンドルが会場に輝きます。そこでまけないぞうも販売します。

せひ、子供さんと一緒に、夫と一緒に、彼女、彼女と一緒に遊びに、ボランティアに参加ください。お待ちしております。

## 6/8「地域福祉推進シンポジウム—新たな生活困窮者支援制度から“よりよい型支援”を考える」

とちぎVネット+  
社会的包摂サポートセンター+  
栃木県若年者支援機構  
電話 028-622-0021

FAX028-623-6036(とちぎVネット)

●社会的孤立や生活困窮者等の課題を抱え他人へのきめ細かな相談・支援の体制づくりをおこなっていく「生活困窮者自立支援法」が成立しました。地域では早期発見、総合支援体制の強化、官民共同による支援体制の展開などの地域づくりが求められています。

生活困窮者自立支援法に関する経緯や内容について栃木県内の幅広い支援団体・機関・個人が理解を深め「多様な困りごとを抱えた人々」を包摂できる地域づくりに向けて、地域ネットワークの強化を目的として実施します。

また、寄り添い型相談支援事業“よりよいホットライン”の事業報告を行い、今後の支援体制構築のあり方を考える契機とします。

●6月8日(日)13-17時、とちぎ男女共同参画センター「パルティ」大ホールで(宇都宮市野沢町4-1)

■基調説明(13:10-14:10)「生活困窮者自立支援法について」熊木正人さん

(厚生労働省社会援護局 生活困窮者自立支援室長)

■ 報告① (14:15 - 14:35) 「平成 25 年度よりそいホットライン事業報告」 遠藤智子さん (一般社団法人社会的包摂サポートセンター 事務局長)

■ 報告② (14:35 - 15:20) 「困窮者の自立とは～生活困窮者自立支援法と地方自治体の体制構築～」 西岡正次さん (前・大阪府豊中市市民協働部理事・就労担当)

■ パネルディスカッション (15:30 - 16:50) 「新たな生活困窮者自立支援制度に基づく包括的な相談支援体制の構築に向けて」

○パネリスト：熊木正人さん (厚生労働省社会援護局・生活困窮者自立支援室長) ◆西岡正次さん (前・大阪府豊中市市民協働部理事) ◆熊坂義裕さん (一般社団

法人社会的包摂サポートセンター 代表理事) ◆矢野正広さん (認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク常任理事・事務局長)

○コーディネーター：中野謙作さん (一般社団法人栃木若年者支援機構理事長)

● 申込 / 電話 028-622-0021 FAX028-623-6036 tvnet1995@ybb.ne.jp (とちぎVネット)

### 6/8 SAVEJAPAN プロジェクト「春の里山自然観察会&環境保護作業」

とちぎVネットなど

電話 028-622-0021

● 2012 年から実施している SAVE JAPAN プロジェクト。損保ジャパンと

日本興亜損保さんの社会貢献活動です。栃木県では本会とオオタカ保護基金を中心に実行委員会を結成し、猛禽類「サシバ」の住む環境の保全活動をしています。

イベント会場の市貝町の田んぼでは、希少な水生生物や昆虫などがたくさんいます。ご希望の方には泥遊びも可能です (要着替え)

● 6月7日・9:30 受付開始 10-14時、雨は翌日に延期。宇都宮駅東口からバス送迎あり 8時半発 (先着 20人)

● 場所：市貝町文谷にある小貝小学校駐車場

● 準備物 / 長靴、昼食 (現地に店なし)、水分 (現地に水道なし)、軍手など作業に適した手袋など



### 10月 「ねんりんピック栃木 2014」ボラ募集 / 県内全域

同事務局 (県・ねんりんピック推進室) 電話 028-623-3503

● 全国から集まる選手・役員等をおもてなしの心で温かく歓迎するとともに、式典やイベントの円滑な運営を図るため、大会ボランティアを広く募集します。

● 条件 / 県内に在住、在勤、在学している 15 歳以上の人 (18 歳未満は保護者の同意必要)。

● 日時・場所 / 10月3日～10月7日・栃木県内各所

● 活動内容 / 行事やイベントの手伝い

● 募集 / のべ 1,700 人

● 申込 / 応募用紙に必要事項等を記入し、郵送、FAX、メールで。

● 問い / ねんりんピック栃木 2014 実行委員会事務局・ボランティア募集担当 (栃木県保健福祉部ねんりんピック推進室)

■ TEL : 028-623-3503 ■ FAX : 028-623-3345

### 6/22 「2014 SON・栃木 第5回地区大会」ボラ募集 / 宇都宮

2014 年スペシャルオリンピックス日本

(SON)・栃木

NPO) SON・栃木

電話 028-612-154

son-tochigi@bc.wakwak.com

● スペシャルオリンピックス (SO) とは、知的発達障害のある人たち (アスリート) にさまざまなスポーツトレーニングや、競技の場を提供し、スポーツを通して自立と社会参加を促し、継続的に支援する国際的な活動組織です。

● 現在県内では各地区で水泳、バスケット、卓球、陸上、スケートのプログラムが行なわれており、6/22 に日頃のトレーニングの成果を競い、喜びを共にするオリンピック形式の地区大会を行ないます。この大会を皆様と共に作り上げ、アスリートへの理解と友好を深め、心のバリアフリー化を図る機会にしたい思います。

● 日時 / 6月22日 (日) 8:30-17:00

● 会場 / 河内総合運動公園陸上競技場・ドリームプール館 (宇都宮市白沢町 1791-3)、河内体育館 (宇都宮市中岡本町 3225)、古里中学校体育 (宇都宮市中岡本町 3130)

● 種目 / 卓球、陸上、バスケット、水泳

● 内容 / 各会場でのアスリート誘導、競技場での競技支援、医療 (看護師、医師の方)、駐車場誘導 等。

※詳細については、6月7日 (土) に説明会を行う予定です。(於 福祉プラザ第二研修室)

● 申込 / 〒 321-0806 栃木県宇都宮市中央 2 丁目 9・6 手塚ビル 2 階

電話 028-612-1540 FAX:028-612-1541

メール son-tochigi@bc.wakwak.com

### 障がい者乗馬 ボラ募集中! / 宇都宮

NPO) 障害者のための馬事普及協会

電話 090-3530-9256 FAX028-689-1133

〒 321-0921 宇都宮市平出町 2777-1

● 乗馬を通じて障害者のリハビリテーションを行っています。馬や動物が好きの方、馬に興味がある方、障がいを持つ方応援したい方、友人の輪を広げたい方ぜひどうぞ。

● ボラ内容 / 介護・介助、スポーツや野外活動指導の補助、趣味やレクレーション指導の補助、その他。

● 募集 / 随時

● 活動時間 / 朝、午前、午後

● 活動場所 / 宇都宮市平出花の木 2777-1

# ■困窮者が「縁を作る居場所」、 なかなか上手くいかないけど…

## 【3・4月のフードバンク】

3月◎ 医療福祉機構（WAM）の助成事業が3月に終了しました。事業名は「フードバンクを媒体とした困窮者支援事業」です。概要は、①生きるために最低限必要なものは食べ物を得ること。すなわちフードバンクにはそんな人が、電話で問い合わせたりする可能性が高い。②困窮者は一般的に「縁が切れている人」が多い。③そこで、フードバンクの倉庫兼事務所を居場所にして、ボランティアや、同じ境遇の人たちと新たな縁を作り社会復帰のきっかけとする。④そして、助けられた困窮者がボランティアとなり他人を助けることで「助け合いの輪を広げていく」というものでした。



徳山篤（F B担当職員）

当初は比較的うまくいっていましたが、人間はそれほど単純ではなく、当事者の中で調整役の人が存在しないとうまく機能しないとわかりました。新年度になっても引き続き行っていますが、何らかの対策が必要ですね。

## 4月◎

新年度になって、フードバンクを運営するにあたって資金確保の一環で「営業ボランティア」を展開しています。担当は木下さん。手始めに団体会員の拡大に力を入れてます。

あとは、助成金の事業報告を作成したり、新たな助成金を申請したり、相談所の準備をメインに作業を行いました。あっという間に4月が終わってしまったという感じです。

3月は比較的SOSの数は少なかったように思えたのですが、4月の新年度になってからSOSの件数が増えたように思います。それではSOSの紹介をいたします。

## 栃木の困窮者の実情

# 3・4月のSOS

7日まで栃木県に滞在し、静岡に向かうという事で現地の支援できそうなところに連絡をし彼を受け入れてくれることを約束し、静岡に向かってもらった。無事に静岡に着いたと連絡があった。

## 3月

●11日 / 宇都宮市Kさん母子家庭、自分の不注意だが、怪我をしてしまい仕事ができなくなり、休職中。日雇いという形なので、出勤しないと収入がないので困窮して食品の支援を求めてきた。

●宇都宮市Oさん 失業して生活保護を受給予定。出費がかさみ一時的に困窮してしまった。生活保護受給までのつなぎの食品を支援しました。

●12日 / 静岡市Tさん男性、愛知県で派遣で工場に働いていたが、仕事上の怪我が原因で休業補償を受けて生活していた。母が日光市で生活保護を受けて生活していたが、逝去したため葬儀等のため一時的に日光市に来ていた。他力本願的な発想が得意らしく、行政を通じて助けを求めてきた。休業補償の金を受け取る3日分の食品を翌日に配達した。

●14日 / 12日に支援したTさんが事務所に助けを求めてきた。休業補償は、母の借りていた家賃の滞納の支払いに使ってしまったとのこと。お金もなく泊まる所もない。どうしたいのかも決まらないので少し考えてもらうことにした。

●18日 / Tさんが東京に行く決断をした

ので、東京までの電車賃を個人的にポケットマネーで貸し出す。もうたぶんお金は帰ってこないだろう。

●26日 / Nさん男性宇都宮市 住宅詐欺にあってから、車の路上生活に陥ってしまったらしい。その後、路上生活になって体力の限界を感じ社会福祉協議会を経て助けを求めてきた。就労意欲は十分にあるので、生活保護を受けて住所と生活を安定させてから、就活をするという事で生活保護に同行でつなげた。

●28日 / Kさん男性鹿沼市、精神疾患で障害者年金を受給して生活。家計のやりくりができず。食品支援を電話で求めてきた。食品を自宅へ配達する。

## 4月

●2日 / Sさん女性宇都宮市 生活保護を受給するまでのつなぎの食品支援を求めてきた。直接事務所に訪問してきたので、食品をお渡しする。

●3日 / Yさん男性藤枝市 ブラック企業で働いていたが、勤務することができなくなったため、福島の人に世話になると決めて片道切符で友達に会いに行ったが、友達がすでに亡くなって頼ることができなくなっていた。

12日 Uさん女性宇都宮市 寄り添いホットラインから支援要請があった。病氣と怪我の後遺症で働けないので困窮したしまった。所有車両の問題で生活保護を受けられない。福祉事務所との関係も良くななく出口が見えない感じた。その後、2回食品を支援している。

17日 Kさん男性長野県 家庭を持っていたが家庭内不和により家出をして、派遣の仕事をして生活していた。群馬県の職場の人間関係に嫌気がさし自己退職をしたが、金も泊まる場所もなく栃木県に仕事を求めてきた。一晩倉庫に泊めた。

22日 Kさん仕事の面接に行ったが、就職することを断念して小山市から宇都宮まで歩いてきた。仕方がないので生活保護を受けて、仕事を探すことにした。同行して生活保護につなぐ。

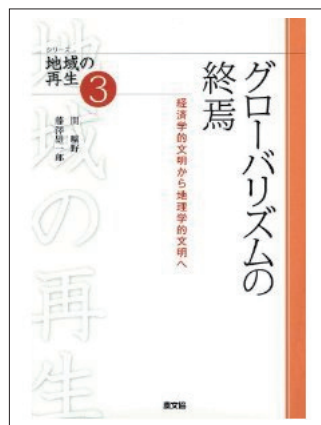
28日 名前不明男性・宇都宮市 城山区地域包括支援センターから支援要請の電話が来た。自分のことに無頓着で、周囲からアドバイスを受けても行動することがなかったらしい。（年金を申請するとか、生活保護を受けるとか。）そのため困窮して食べられなくなったので、地域包括支援センターに泣きついてきたらしい。3日分の食品を地域包括支援センターの職員を通して渡す。

# 『グローバルバリズムの終焉』

## 『経済学的文明から地理学的文明へ』 ◎シリーズ地域の再生3巻

●関曠野・藤澤雄一郎／著

●農文協／定価2600円＋税



みんな  
文庫

評者●白崎一裕 (楸共に生きるために)

**成長経済と資本主義、化石燃料を消尽する経済学的文明から、  
地理学・生態学・熱力学の科学的洞察に  
立脚してエントロピーの抑制を課題に  
する地理学的文明への転換。  
これこそ、実は最も先鋭的な政治的課題**

評者は、1980年代半ばから90年代前半まで、不登校やヤンキーの子どもたちのくる私塾をやっていた。その頃のことどもたちの口癖のひとつに「将来のことなんて聞くんじゃね〜」という悪態があったものだ。彼ら・彼女らにとつては将来や未来のことなんて鬱陶しくて抑圧的なものであり、未来がいまより良くなるということは信じられなかったのだ。また、その当時聞いたことだが、定時制高校教師の勉強会が出る話の中に、生徒たちが教師のことを「このジジイ!」とか「このババア!」とか攻撃的に呼ぶようになるのが、ほぼ同時多発的でしたか

1975年頃からというのである。本書で何度もとりあげられるニクソンのドルショックが71年、ローマクラブ報告『成長の限界』の公刊は72年。そしてオイルショックが73年と続く。先に述べた70年代の「子どもたちの変容」と本書で指摘されているドルと石油の二つのショックによる成長経済の終焉は、単なる偶然とは言いがたい同時性を有している。近代資本主義の終わりの始まりを子どもたちの感性は鋭敏に捉えていたと解釈すべきではないだろうか。「子どもたちの変容」は、その後80年代から90年代へむかうにつれて、校内暴力・いじめに加えて、

不登校・引きこもりという現象を伴い継続していく。これらは、単なる青年期の病理現象を超えて現在では普遍化され、草食系とかサトリ(悟り)世代とか呼ばれるようになってきている。「24時間戦えますか」というサラリーマン向け栄養ドリンクのコマーシャルは、発表された当時から、バブル期のサラリーマンをパロディ化するものでもあったが、現代では、まったくの死語といつてよいだろう。子ども・若者の感性レベルでは確実に成長経済は終わっているのだ。

本書では、成長経済をもたらしてきた資本主義の歴史が、コロンブスの航海によるグローバル化を伴ってはじまり、新大陸アメリカの広大な国土と資源を「タナボタ」的に手にいれることによりその資本主義が軌道にのったことが説明されている。この資本主義は、結局のところ大衆の消費欲に支えられた過剰発展と所得不足による矛盾をかかえているのだが、その過剰発展を支えているのが、銀行が生み出す利子付き負債マネーと19世紀には石炭、そして、圧倒的なエネルギー収支の効率の良さをもつ20世紀の石油という化石燃料だった。しかし石油危機やその後のピークオイルにより成長経済はあきらかに行き詰まり、それを仮想現実的に埋め合わせようとして金融マネーゲームが介入するというのが80年代以降における資本主義成長経済の最後の悪あがきだったというべきだろう。ただ、本書は、単に資本主義の成長経済の終焉を分析しているだけの書物ではない。ポスト成長経済(資本主義)のための見通しをしつかりと提示している。その方法こそが、ダグラスの社会信用論を発展的に受け継いだ、銀行経済から脱却する政府通貨の発行と、過剰発展と過少消費の矛盾を解消する個人単位・無条件のベーシックインカムの実施なのである。これらの制度改革により、冒頭に述べた若者の成長経済への感性的違和感、その出口と着地点を「農」的暮らしを基盤とした「人間を人間の本分に即して保全する文明」へ求めることとなるだろう。

従来からの資本主義批判とエコロジー的環境主義は、お互いがその抽象性から成長経済後の世界を展望することができなかつた。しかし、本書は、通貨とエネルギーの問題点を歴史的に総括することにより具体的で実践的な道筋を私たちに提示してくれる。本書が呼びかける提言、すなわち成長経済と資本主義として化石燃料を消尽する経済学的文明から、地理学・生態学・熱力学の科学的洞察に立脚してエントロピーの抑制を課題にする地理学的文明への転換こそ、実は最も先鋭的な政治的課題であることを最後に付け加えておきたい。

みんな  
文庫

みんな  
文庫



## 「母という病」 ～母の日によせて～ (5/9)

「子どもが私たちの気持ちに気づいてくれるときには、自分たちはもうこの世にいないのでしょね・・・」

あるお母さんの口からこぼれた言葉です。

このお母さん、ご自身が幼い頃に母親を亡くされ、結婚した後は厳しい姑にひたすら仕えてきました。

母親がいつもいつも姑に意識が奪われていたその陰で、“お母さんはこんなにおばあちゃんのことで大変なのだから、自分はわがままを言っちゃいけない、我慢しなきゃいけない。”

「息子は、そう感じていたのだと思います」と目を伏せる母親。

社会になかなか踏み出せないでいる息子さんに対し、思う存分甘えたいときに愛情を注いであげることができなかったことを、母親はどれほど悔やんでも悔やんでも悔やみきれないでいる。

あの時の自分にはどうすることもできなかったけれど、母親自身、今更取り返しがつかない現実をどう受け止めたらいいか分からない。そのような状況の中で、動き出せない息子と一緒に沈んでいるのではなく、せめて自分だけでも明るく振舞って活動的にしようよと、友達とお茶しに行ってきた夜に息子さんに言われたひとこと。

「僕がこうして何もできないのに、お母さんはお茶しに行けていいね」

「ごめんねって、笑って誤魔化すしかありませんでした。本当は“あなたのこと、片時だって



頭から離れたことないのよ”って喉まで出しましたが・・・」

そうおっしゃった後に、はらはらと涙を流されながら冒頭の言葉が続きました。

常日頃、こんなにも子どもは強く親を求めているのに、なぜ親としての立場や気持ちを脱ぎ捨てて、真っ新たな心境で受け止めてくださらないのか・・・そう感じる事が多いのですが、前述のお母さんの言葉からは、母親としての苦悩や悲し

みがひしひしと伝わってきて、何ともやりきれない気持ちになりました。

先ごろ話題になった、岡田尊司著「母という病」の中に出てくるケースのひとつひとつが、私たちが出会った親子に重なりあい、改めて母親という安全基地をもつことの大

切さを思い知らされます。

もうすぐ母の日・・・。

母親と子どもの大切な瞬間に、こうして立ち会

わせていただいていることに感謝をこめて。

(つかもと・あ)

## 若者自立支援

### 「しごとや」のこと (4/10)

栃木県若年者支援機構「しごとや」の研修生と仕事をして来ました。内装工事のお手伝い。スタッフ1人と3人の研修生、合計4人の写真、記念にニコリはいポーズです。

この「しごとや」どんな組織かという家引きこもりの若者、一般に言うニートを応援しながら就労に結び付ける若者対象の支援団体です。引きこもりと一口にいっても個人のケースはまちまちで対人恐怖症を持っている人、うつ病を患ってしまった人、またアスペルガーやADHDの障がい



がある人、親子間や家庭環境まで、引きこもりに至る過程で同じパターンの人はいませんが、全員バラバラです。今までに何人もの研修生と話をして来ましたが、引きこもりになるケースは皆バラバラなのに共通している事がひとつあります。それは引きこもりの生活を満喫していた人は一人も居ないということです。

毎日忙しく働いてる人から見ると「ニートって働かないでいいな～」と思いがちですが、彼らと接していると彼らなりに苦しい事情が伺うことができます。

閉塞感や強迫観念などマイナスな感情に満たされた生活を送っている人ばかり。家での話を聞くと研修生はうつむいて重い表情になります。

この「しごとや」は独自に便利屋事業を運営しています。広く一般市民が対象のサービスお掃除から草刈りまで営業しています。働きに来るのは写真に写っているような4人、もちろんニートの世界から自立しようと頑張っている若者たちです。ブログを読んでくれた皆さま、もし身の回りでお困りなことがありましたら「しごとや」に連絡してみてください。ホームページはこちらです <http://tochigi-yso.org/>

皆さんのちょっとした仕事の依頼が若者の大きな一歩になるかもしれません。

(リサイクル屋⇒エコスマイル・木村信夫)

## tochigivnet.com

Vネットブログ再掲

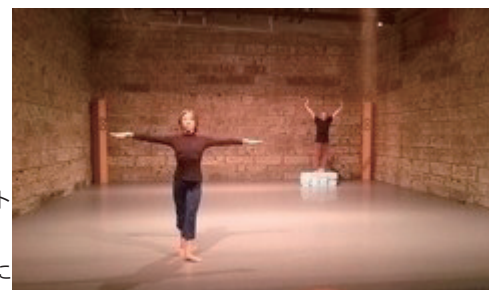
## 幻想的空間 be off (4/20)

宇都宮市で文化会館を中心にファイナルドフェスティバルが開催されました。その中で南宇都宮駅のすぐ近くに、大家石の倉が並んでいる箇所があります。その中の一つにbe offというスタジオがあります。その設立者の妻木律子さんがフェスティバルの日にこの場所で公開パフォーマンスを開きました。チケット代1000円×入場者数をとちぎボランティアネットワーク(以下Vネット)に寄付してくれることになったのです。Vネットメンバーも会場に駆けつけ

見学させていただきました。もちろんチケット代は払いましたよ。

会場は照明がコントロールされているとまさに幻想的なアートな空間でした。そこで繰り上げられる出演者のパフォーマンスは素晴らしいものでした。特に影絵の一寸法師はお気に入りでした。これで千円はお得だなあと思いました。

こここのところ忙しい日々を送っていただけに、心に清涼剤をいただいたような気持ちになりました。



(理解できていないのに芸術を理解した気になった徳山より)

## 花見をしながらまけないぞう販売 (4/14)

先週に引き続き4月12日、13日に清原工業団地3号緑地でライフネットワークさんのご厚意とちぎVネット・ボランティア情報 vol. 206 9

でまけないぞうを販売させていただきました。  
Vネットおなじみのボランティアや宇都宮未来  
クラブの高校生が販売してくれました。  
ライフネットワークの熊のえーちゃんとねこ  
ちゃんの活躍により50頭以上のまけないぞう  
の販売をすることができました。  
ライフネットワークのジャンボフランクやイカ

焼きなどの食品販売は春なのに冬の寒さのよう  
に売れませんでした。このようなところにも消  
費税アップの影響があるのでしょうか。  
価格は据え置きなんですけどね。

宇都宮未来クラブの高校生も大活躍⇒●



## 第2回 チャリティーウォーク 56.7 実行委員大募集

今年も「チャリティーウォーク 56.7」を11月8・9日に行います。

5月から実行委員会を結成します。活動の内容は、イベントの企画、宣伝、参加者集め、寄付集めなどいろいろあります。要するに、楽しく面白くなるような仕掛けを作り目標に向かってみんなで頑張るボランティアです。

宇都宮から中禅寺湖まで、2日間かけて歩いた参加者のあの感動的なゴールの瞬間に立会いたいと思う方は「チャリティーウォーク 56.7 実行委員会」にぜひ参加してください。

- 毎月第4水曜日 19:00～（8月からは第2・第4水曜）
- V飯（200円）を食べてからの実委です。
- やりたい人は、028-622-0022まで



## 頂上、ハイタッチ、一体感が 生まれた瞬間。- 寄付ハイク・完走の感想 - 立野匠 (NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・栃木)

私たち NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・栃木（以下「SON 栃木」）は、今回初めて参加させていただきました。

SON 栃木は設立後 10 年になりますが、組織外部へのファンドレイジングについては決して十分とはいえず、今回の寄付ハイクを通じて、多くの方に SON 栃木の存在を理解していただきたいというのが参加の動機でした。

事前にやった、ボランティアの実行委員会では、コース整理員の立つ場所や給水所の設定、ハイタッチ要員の配置など、参加者が楽しく臨めるように皆で知恵を出し合いました。



## ★ 4/5 (土) サクスVクラブ の定例会 (飲み会) をやりました。!

菊池順子 (事務局 / 宇都宮)

サクスVクラブとは年間に2万円以上の寄付を下された人の集まりです。メンバーは今30人。「サクスに入るよ!」と言ってくださればその場でメンバーズ加入となります。

桜の季節の5月と秋の10月、年2回Vネット事務所で飲み放題、食べ放題、しゃべり放題、何でもありの楽しい会をします。ちなみにどんな人がメンバーなのかと言いますと、Vネット設立にふか〜く関わってくださった人、災害ボラで仲間になり、今でも一緒にボランティアしている人など、長〜い付き合いです。Vネットも今年で設立20年です。あの頃30代が今50代、60代と高齢化も進んでいます。メンバー内で勝手にシニア会と称して温泉旅行したりしています。

事務局長の言う、一日55円の寄付で年間2万円です。ぜひメンバーになって栃木県内の助け合いの仲間の輪をひろげませんか。次回の定例会 (飲み会) は10月に予定しています。



●事務所の窓から見える桜

●歌っている人もいます。





◆①街の終わり、永野川



### 大平山 (縦走) コース



◆③大中寺、昼食後のプレゼン

◆②山頂まではランコースと同じ。後方にはランナーが追いついてます。



◆④JR大平下駅で解散

当日は晴天に恵まれ、私はスペシャルオリンピックスの赤い幟を持って太平山頂往復ランコースに参加。あじさい坂の石段は、一緒に先頭を走っていたウエブの吉成さんやサバイバルネット・ライフの仲村さん、うりずんの佐藤さんも走って上がれず、ただ黙々と頂上を目指しました。太平山神社境内では國學院栃木短期大学みたらし会の方々が、ハイタッチ要員として出迎えてくれます。もう登りが終わったという安堵感とともに、何というか、一体感が生まれた瞬間でした。その後は我先にと山を下りましたが、疲れて少々歩いてしまったのが災いし、信号に引っかかって3位でゴールしました。

終了後は昼食を挟んでの各団体アピール合戦。私は最初に言うべき「SON 栃木の活動趣旨」の説明をし忘れてしまい、おそらくどういう活動をしている団体か、皆さんに十分に理解していただけなかったかもしれません。

SON 栃木は、知的障がいのある方に、日常的なスポーツプログラムとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。次回以降も寄付ハイクに参加したいです。そして、今回言い忘れてしまった活動趣旨を、皆さんの前で必ずアピールしようと思います。

## 第6回フードドライブ 「食品寄贈募集強化期間」

4月を境に食品支援要請の数がうなぎ上りになっています。病気や怪我で仕事ができない、生活保護を受けるまでの数日間の食品が欲しい、と要請理由は様々です。日頃、多くの人から食品寄贈を受けていますが、それ以上に食品不足が実情です。特に電気やガスが止まっているお宅も多く、調理をあまり必要としない食品(缶詰やカップラーメン等)をいただけるととても助かります。

●募集期間：6月14～28日まで(月曜日は休)

●受付時間：10:00-19:00

●集荷場所：宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル1階 (宅配便の受入も可。遠方の人や運べない人は連絡ください)

●募集食品：穀類(麺類、小麦等)、保存食品(缶詰、瓶詰等)、インスタント食品、レトルト食品、調味料各種、食用油、飲料(ジュース、コーヒー、紅茶等)、ふりかけ、お茶漬け、のり、ギフトパック(お歳暮、お中元等)など。

●数量の大小は問いません。(缶詰1個でもOK)

●注意事項：賞味期間が明記されているもの。賞味期限が1カ月以上あるもの。未開封のもの。破損で中身が出ていないもの等。

フードバンクから作る新しい「助け合いの輪」にご協力を。

## 会員・寄付者のお名前

【3/1-4/30 順不同 敬称略】

4月30日の会員数692人(退会：18人・入会：9人)

●一般寄付(597,420円) / 早川美奈子 12,000円、長正英 2,000円、佐藤久子 10,000円、高井徹 7,000円、森田晃光 1,000円、菅磨志保 7,000円、鱈淵元成 20,000円、児玉幸弘 2,000円、門馬芳子 10,000円、小野幹夫 5,000円、澤田弓子 2,000円、内間茂 2,000円、桑久保キキ 2,000円、高木敏江 10,000円、加藤豊 2,000円、荒井紀一郎 2,000円、佐藤かおり 5,000円、瓊井田和代 7,000円、青柳拓也 5,000円、手塚浩美 5,000円、田村悦子 2,000円、服部和雅 100,000円、花王ハートポケットクラブ 200,000円、その他 10,420円、佐藤由紀子 20,000円、花王(株) 147,000円

●フードバンク寄付(184,096円) / 山崎周 2,000円、仲村天平 3,000円、佐雲光伸 8,096円、晃丘会 10,000円、菊池浩史 30,000円、柴谷圭子 3,000円、高田美保 30,000円、青柳拓也 2,000円、石田昌義 1,000円、鈴木孝雄 2,000円、江馬久美 2,000円、井村正治 3,000円、八木良 3,000円、鈴木実 3,000円、岡部昇子 2,000円

●サンクスVクラブ寄付(260,000円) / 長正仁 20,000円、早乙女正次 20,000円、高橋昭彦 20,000円、中村明美 20,000円、早乙女順 20,000円、渡辺みゆき 40,000円、赤木健一 20,000円、高木敏江 20,000円、角鶴子 20,000円、栗山宏 20,000円、天知稔 20,000円、佐藤由紀子 20,000円

●とちコミ寄付(6,000円) / 石川慎太郎 2,000円、中村絹江 2,000円、矢野美智子 2,000円

●若者未来基金(4,000円) / 石田昌義 4,000円

●災害救援ボランティア基金(9,677円) / 東日本ビバレッジ 9,677円

●支持会員 / 渡辺みゆき、内田安紀、平澤勝幸、小野幹夫、青柳拓也、手塚浩美、浅間商事(株)、増田茂

●賛助会員 / 石塚千穂子、小島宏陽、白井郁子、高井徹、菅磨志保、枝野啓子、ドリン由美子、瓊井田和代、加藤豊、荒井紀一郎、大橋浩子、菅又さゆき、栗原敏子、鈴木孝雄、三田栄一、田村悦子、鈴木和子、槻木澤宏彰、角鶴子、角田孝之

●団体会員 / トチギ環境未来基地

「フェアトレード製品」  
がある  
お店を訪ねて 23

## もうひとつの美術館

宇都宮市から北東の那珂川町方面へ約45km、旧馬頭町をめざすと、里山に建つ木造校舎に出あう。これが、廃校になった明治・大正期の小学校を町から借り受け、再利用する形で開設された美術館だ。教室、理科室、職員室が各々、アートの展示室やショップ、そしてカフェだったりする。

「もうひとつの(美術)」という名前は、国内外の障がい者の作品を中心に、既成の枠にとられないアートを広く紹介する、という意味が込められている。2001年の設立当時は障がい者の作品を常設展示する美術館は国内にはなく、パイオニア的存在でもある。

アート作品はユニークな感性と生きる力強さ



があふれている。固定観念とは無縁で、正直に自然体で、ストレートで分かりやすい。不思議なエネルギーを感じる。

春、夏、秋と年三回の企画展の他、イベントやワークショップ(参加体験型のプログラム)がいろいろ用意されているのが嬉しい。

作品を楽しんだ後は是非、カフェに立ち寄りみて。窓際の席から、かつての校庭が見える。どこか懐かしくてやさしい自分を取り戻せる。

- 那珂川町小口 1181-2
- 電話 /0287-92-8088
- OPEN 10:00-17:00 (入館は 16:30 まで)
- 休館 / 毎月曜、冬期、展示替時(休日は開館)

ショップでは作品を印刷したカードやTシャツ、手作り雑貨などかわいい品が揃っている。フェアトレードの紅茶も販売している。

### < Infomation >

- 6月14日(土)～8月31日(日)  
サマーフォーラム2014「家、街のかたち」  
“家と街”をテーマに障害をもった作家や、建築家やアーティストなど13人が表現する。
- 8月16日(土)13:30-16:00  
イベント:スペシャルトーク「家、街、コミュニケーションとしてのかたち」
- 8月7日(木)～8月24日(日)  
第3回なかがわまちアートフォレスト2014  
全国公募のハンディキャップをもった作家の入选作品と招待作家の作品を那珂川町の各所に展示。まちはアートの森になる。
- 9月20日(土)～12月7日(日)「あつまる 工房集」(仮題)
- 10月4日・5日(土日) イベント

### ■フェアトレードとは■

- ・国際産直
- ・適正な価格で取引をすることで途上国の生産者の自立を応援
- ・地球環境と生態系を守る農法で生産
- ・お買い物海外協力になるしくみ

## 吉田ユリノ(まちなか・せかいネット=とちぎ海外協力NGOセンター)

**編集後記** 世の会社もVネットも総会の時期、意外に忙しい。6/1の総会では「死んだ後から、今を考える」と題しておひとり様社会のことを考える。そしてその1週間後は「生活困窮者自立支援のシンポジウム」。テーマは孤と縁だ。共同性とは時間を合わせる。自由というのは自分の時間を生きること。自分の時間を追及しているだけでは自分だけの楽しみでしかない。稼ぎのために働く時間を合わせているだけでなく、楽しみも時間をあわせたり、さらには「良いことをする時間」も合わせないと公共は作れない。“自分の”時間をどう他人と合わせるのか、おひとり様社会の生き方の流儀が問われている気がする(矢野)

いつでも  
あなたの  
側にいる



認定NPO法人  
とちぎボランティアネットワーク

- ◎ボランティアセンター & NPO支援センター
- ◎フードバンク・困窮者支援
- ◎災害救援
- ◎若者の自立支援
- ◎寄付文化の醸成

- 〒320-0027  
栃木県宇都宮市塙田 2-5-1  
共生ビル3階
- TEL 028-622-0021
- FAX 028-623-6036
- Vネットに遊びに来てね。  
9:30-19:00 日・月休み

ボランティア・NPO・市民活動を応援するとともに、生活困窮者や災害救援など「いまのSOS」に応える本会の活動は、市民の皆様の暖かいお気持ちや、有形無形のお力添えによって成り立っています。「支えています。支えてください」を合言葉に、やり直しができる社会、豊かな栃木作りを目指します。ぜひ、あなたも仲間になりませんか。

### ■会費(年間)

- ◎支持会員…5,000円
- ◎団体会員…20,000円(1口)
- ◎賛助会員…3,000円

※賛助会員は総会議決権がない会員です。  
※「ボランティア情報」が年6回届きます。  
※ご寄付には税制優遇があり、寄付額の最大約50%が税金から還付されます。本会は認定NPO法人のため、確定申告で「寄付金控除」が受けられます。他にも相続税の非課税、法人寄付の場合、損金算入限度額の拡大などがあります。

### ■郵便振替

口座番号/宇都宮 00360-4-31111  
加入者名/とちぎボランティアネットワーク

### ■WEBサイトから…会員、寄付の手続きできます

- ・クレジットカードで寄付もできます。
- ・マンスリーサポーターで月1000円からのご寄付も。

□WEB tochigivnet.com  
□メール tvnet1995@ybb.ne.jp